

# 「能登半島地震・奥能登豪雨」 －2度の大規模災害を経験して－

「大好きこの地域から、一人の犠牲者もだしたくない」

今こそ、学校から発信啓発しての、  
学校と地域が一体となって進める防災の取り組みを

学校からの防災への取り組みは、かかわりあいを通して、児童生徒の生き方につながり、皆に優しい地域づくりへの土台となるもので、主権者教育そのもの 都市部こそ不可欠。

今こそ、

学校から発信・啓発して

学校と地域が一体となって進める防災への取り組み

**児童会・生徒会・保護者**会から発信・啓発して

**防災士会・自主防災組織**と連携し

町会・区会・班・隣近所／**住民**

が一体となって進める防災への取り組み

校区から・地域から

自然災害による一人の犠牲者も出さないために

その時、**避難するとき**／逃げるときは、**皆一緒**

地域(校区)住民一人一人の災害に対する

**『心の防波堤』**を築き、**高め、維持**していくために

□□からの呼びかけ100回よりも、○○○○の1回

地域防災・自助・共助・近助段階の担い手は  
**児童・生徒**であり**保護者**そして防災士

**児童生徒が10年たてば大人に  
さらに10年たてば親世代となる**

防災は、その地に住まう住み続けるための作法  
上手にしなやかに自然の猛威をやり過ごす知恵

防災を学校の伝統に、地域の文化に  
顔の見えるふるさとづくり、未来を生き抜く人づくり

**防災への取り組みは、他者とのかわりを通して  
自己有用感、自己肯定感を育む最適なもの**



# 輪島市の概要

市制施行日(合併)	平成18年2月1日
面積	426,32km <sup>2</sup>
人口(R7.5.1現在)	20,194人
高齢化率( " )	50,718%

輪島市は日本列島の真ん中、日本海に突出した能登半島の北部に位置し、「輪島塗」や「輪島朝市」「白米千枚田」などの地域文化伝統工芸・豊かな自然を有する自治体



日本で初めて認定された(H23.6)世界農業遺産“能登の里山里海”のシンボリック存在



天然輪島ふぐ



加能ガニ



県内トップクラスの漁獲量、「天然ふぐ」の漁獲量は日本一、「加能ガニ」と呼ばれるズワイガニや、海女さんが素潜りで採る「海女採リアワビ」、「輪島海女採リサザエ」なども輪島を代表する味覚であり、「輪島海女漁の技術」は「国の重要無形民俗文化財」に指定されている



輪島海女採リアワビ



- ・日本を代表する伝統工芸
- ・木地,上塗,加飾120以上の工程で完成
- ・日本芸術院会員1名、人間国宝6名を輩出



輪島塗大型地球儀  
(輪島漆芸美術館)



輪島漆 美食と器



東京五輪  
卓球台採用

輪島塗

- ・日本三大朝市のひとつでありその起源は約1000年前の物々交換から始まったと言われている
- ・約360mの通りに露店が180ほど立ち並び、鮮魚や海産物,野菜,民芸品などが販売されていた



輪島朝市





# 輪島市の概要

人口 20,194人  
高齢化率 約50.7%



- 能登半島の北西部に位置し
- 東部／町野、中央部／輪島西部／門前の3地区に
- 市面積の約78%を占める山地が東西に連なり
- 狭い海岸線の低地に市街地中山間地に集落が点在
- ライフライン、交通、通信空港港湾等インフラに課題
- 県庁・金沢市から100km超
- 里山海道・能越道、R249号※

# 能登半島地震の概要 (令和6年1月1日16時10分発生)

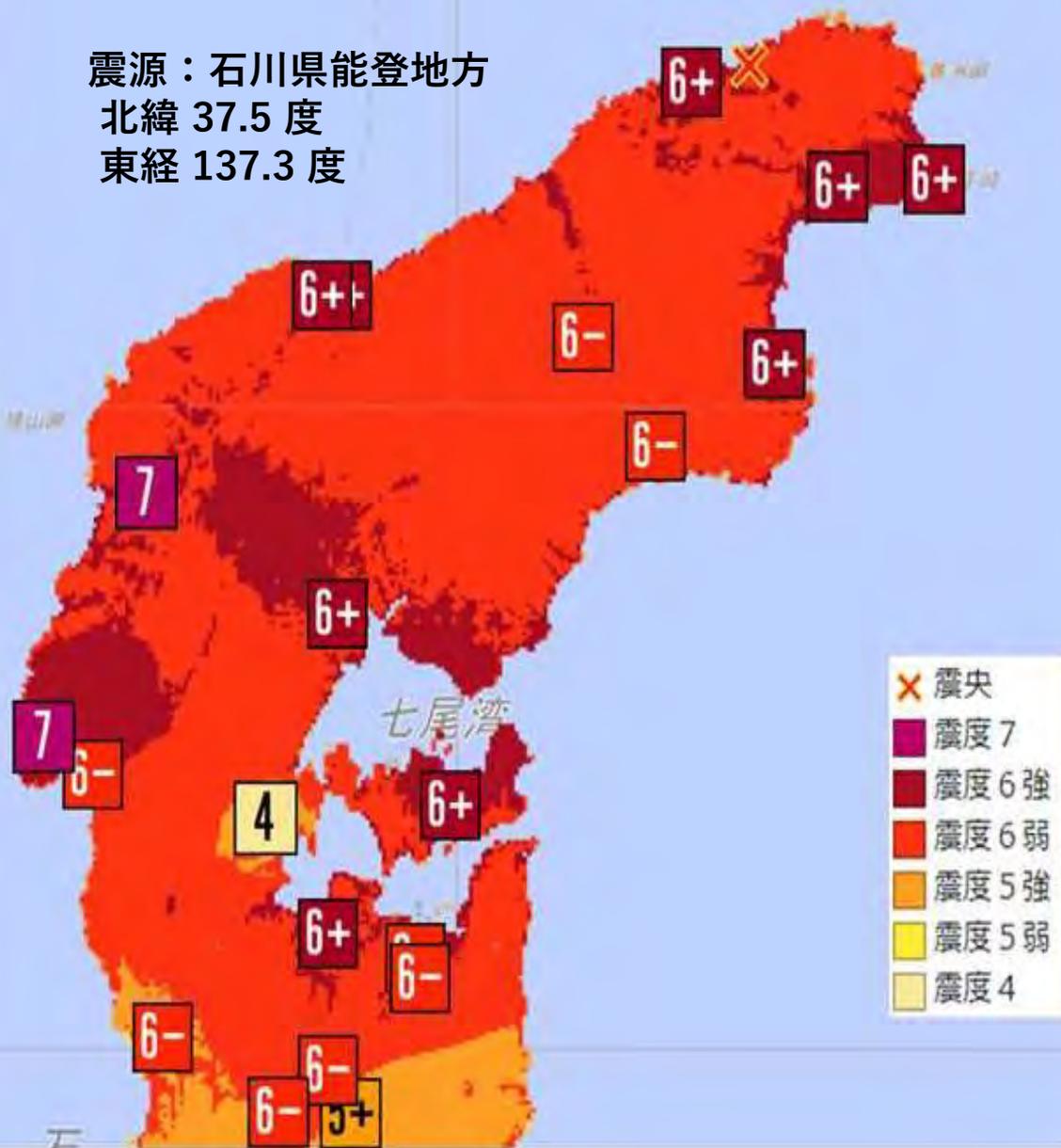
◎令和6年(2024年)1月1日16時10分マグニチュード7.6 深さ16kmの地震が発生。石川県輪島市, 志賀町で、震度7を観測した他, 北海道~九州地方にかけ、震度6強~1を観測。

◎今地震により石川県能登に対して大津波警報を、山形県兵庫県北部を中心に津波警報を発表し、警戒を呼びかけた。

◎気象庁は、2024年1月1日に発生したM7.6の地震や2020年12月以降の地震活動について、名称を

**令和6年能登半島地震**

震源：石川県能登地方  
北緯 37.5 度  
東経 137.3 度



# 地震（火災）被害の状況

輪島朝市辺り



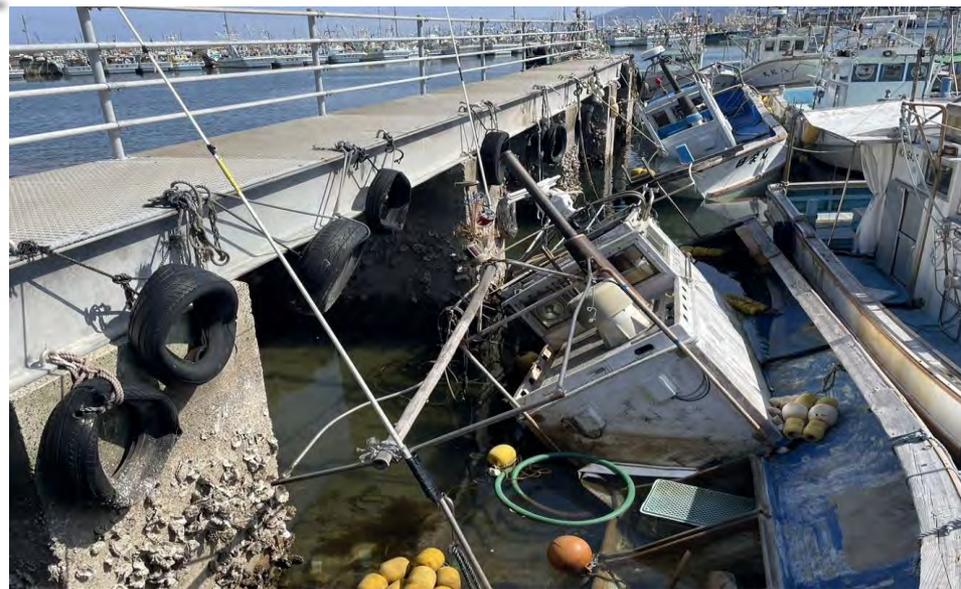


# 地震（倒壊）被害の状況

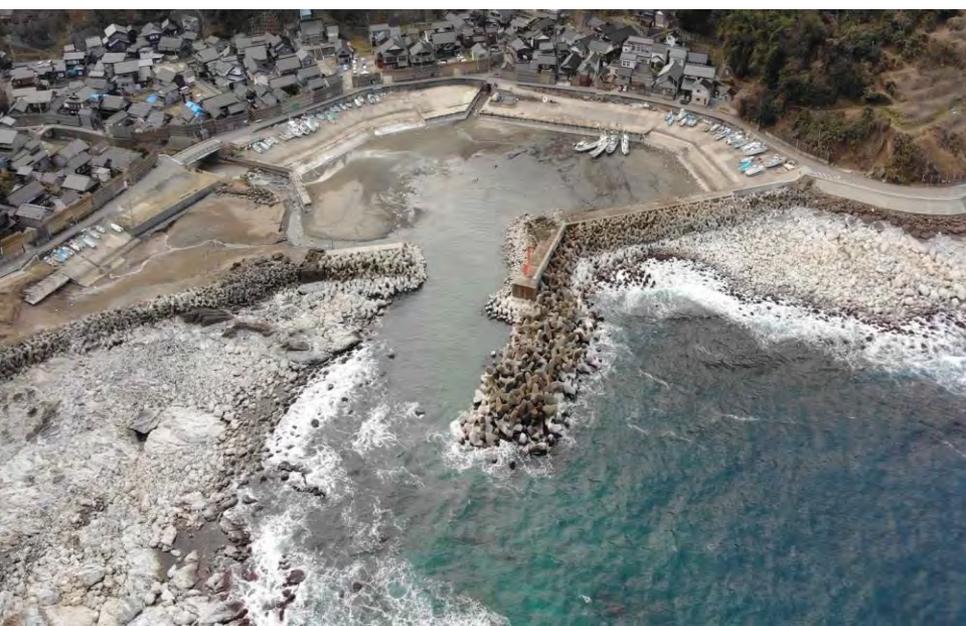
## 市街地建物被害



# 地震（倒壊・隆起）被害の状況



# 地震(土砂ダム・山崩壊・隆起)被害の状況



# 地震（道路）被害の状況

## 道路等被害

下山町周辺



中屋トンネル



市役所周辺



市役所周辺



# 救命・救助の対応状況

## 【火災現場】

- ⇒断水・瓦礫で消火栓が使えず  
防火水槽が塞がれ消化活動限界  
(少数の消防消防団必死の活動)



## 【倒壊家屋】【土砂災害】

- ⇒倒壊家屋多数,土砂災害規模甚大
- ⇒消防自衛隊警察等による救出活動



## 【孤立集落】

- ⇒広範囲に多数の孤立集落が発生
- ⇒対策本部を中心とした「孤立解消プロジェクト」による情報収集と救出の順位方法の検討
- ⇒自衛隊,消防,県,対策本部の連携による救出 (ヘリ等による救出)



# 学校／避難所の様子

学校体育館・グランド



直後は騒然・大混乱



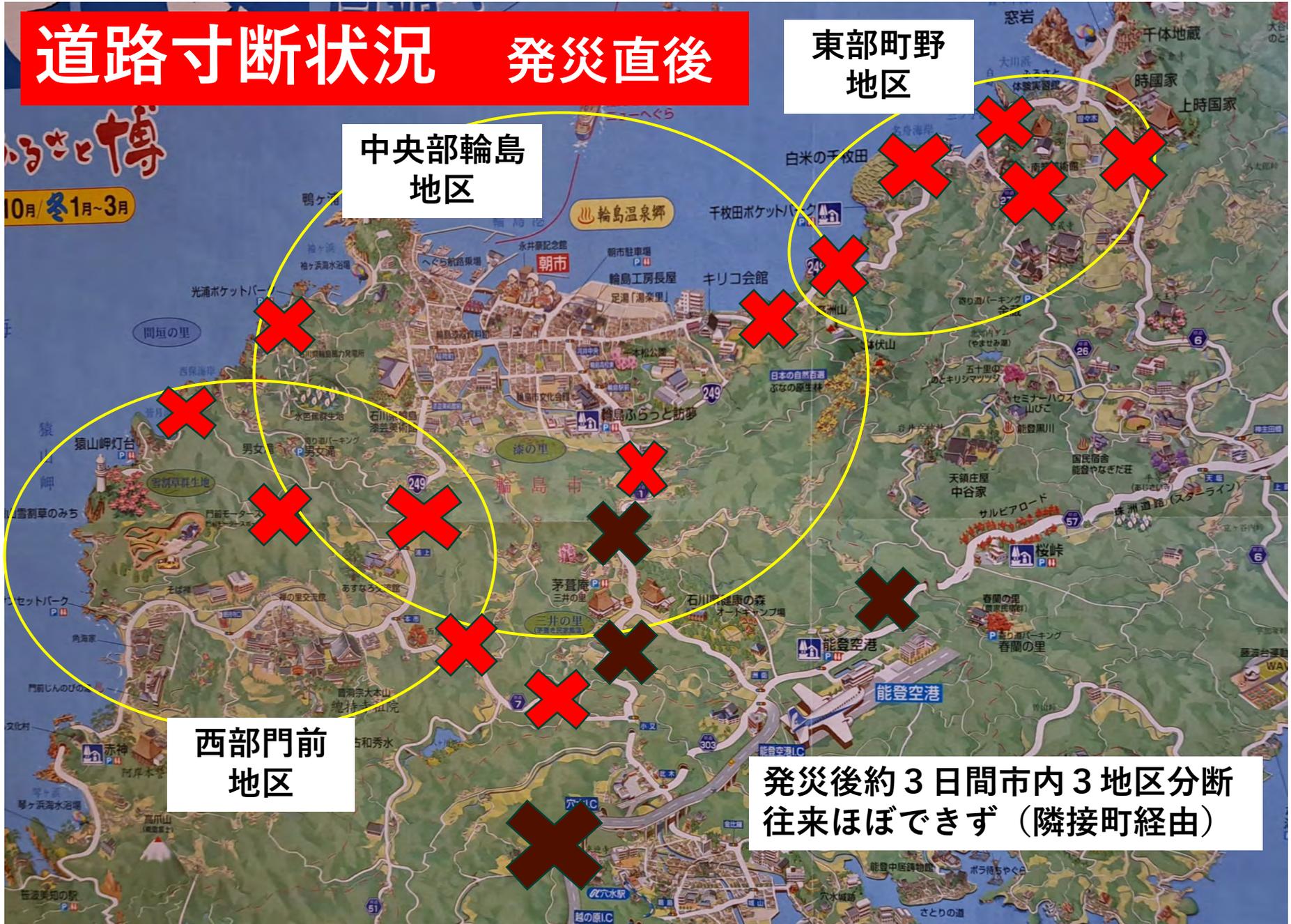
# 道路寸断状況 発災直後

中央部輪島  
地区

東部町野  
地区

西部門前  
地区

発災後約3日間市内3地区分断  
往来ほぼできず（隣接町経由）





# R6.1.3・4 輪島西部地区(門前) 総合支所内 門前地区災害対策本部

支所長(本部長)、地域振興課、整備課・生活課、保健師、警察署、消防署・消防分団、自衛隊  
教育長、土木技監、市民生活部長、議会事務局長、教育部長(中学校避難所運営) → 中央市街地本庁舎へ入れず

※交通・電気・水道網壊滅 通信・人的資源限定された状況下

被災情報(人的、物的)収集、避難所状況把握・要支援者等確認、物資の手配、安否不明者の確認

【避難者等への水、食料、毛布、暖房機器、仮設・簡易トイレ等の確保配備、体調不良者確認支援、避難所運営】で手一杯



自衛隊



(安否不明者の搜索救助⇔確認救助依頼)

# 発災直後の状況

# 「孤立状態」

## 交通・情報・ライフラインが寸断

### ◎職員参集（R 6. 1. 1 発災当日）

全行政職員 **111 / 287人** (38.7%)

内本庁参集 **40 / 200人** (約2割)

直後 移動極めて困難・情報収集ままならず

### ◎インフラ・ライフライン

**奥能登に通じる道路がほぼ寸断、通行不可**

- ・ 空港閉鎖、港湾施設は隆起で使用不可
- ・ 電話回線・ネット回線、テレビ受信障害
- ・ 全域で断水、広範囲での停電、プロパンのみ

# 地震発災時の状況・初動

門前～穴水間道路上、揺れを感じ停車、あまりの揺れ、前後法面崩壊、土砂崩れ、道路地割れ、道路面隆起ささくれ状態→立往生、道路上で孤立状態に 輪島中心部へ入れず

西部、中部、東部分断状態 **(交通網寸断・通信網寸断)**

市役所本庁へ登庁できず / 教育長、教育部長、他幹部職員3名も  
門前地区より出れず / 門前地区災对本部詰めとして業務

**門前支所と本庁との通信困難**

**道路等市内状況、学校状況把握できず**

**教職員への指示** 安全第一 / 校長同士のバーター指示

- ・ 交通状況不明な中、勤務校への車での移動は極力控え、可能な通信手段等で、教職員、児童生徒の安否確認を進めること。
- ・ 勤務校へ出勤可能な管理職はじめ教職員以外は、安全かつ最も近い学校（指定避難所）での運営協力にあたること。
- ・ 登校出勤可能な管理職は、安否確認作業にめどが付いた段階で学校状況確認指示（当時教育部長には、門中避難所運営を指示）

## 本庁へ登庁 門前/輪島間約4時間 6日深夜から

教育事務局内は、教育部長、生涯学習課長他職員2名程  
庁舎内、全国からの応援職員等廊下で仮眠をとる状況

教育総務課 → 学校避難所への給水業務

生涯学習課 → 避難所運営業務／避難者把握作業

文化課 → 災害支援物資搬出入業務

※教育総務課以外、通常業務不能

## 7日より本庁事務局にて教育長業務再開

- ・全教職員並びに全児童生徒の安否・所在確認の指示
- ・3学期全小中校に対し、当面の臨時休業／保護者への周知（あらゆる手段を駆使して）を指示

## 発災・初動 教職員へ

交通機能遮断された状況下において

それぞれの勤務先にたどり着けない状況下  
各職員自らの命・安全が確保される範囲で

**想定にとらわれない** → 移動可能な学校・避難所へ

**考えて最善を尽くす** → 避難所運営スタッフとして

何か起これば勤務先に駆けつける



**できなかつた職員が多数の現実**

# 発災・初動 教職員へ

第一に、児童生徒教職員の安否(現状)確認  
—学校(勤務先)でなくてもできること—

• 児童生徒(保護者)とつながる手立てを工夫  
携帯電話やタブレット端末、避難所訪問

• 現況の確認(家族の状況、住居環境)

まずは、安否所在確認

まずはつなく  
一人にしない

• 何がしかの活動を助言

そこでできる事をともに考え、助言を

# 地震被害の状況(人的・建物) (R R7.4.21現在現在)

- ・死者数 **204**人(うち関連死**103**人)
- ・人被害 重症**213**人 軽傷**303**人 ・行方不明者 **2**人
- ・家被害 **14,816**棟(住家)
  - 全壊 4,043棟 **27.3%**
  - 大規模半壊 881棟
  - 中規模半壊 1,201棟
  - 半壊 2,725棟
  - 準半壊 2,269棟 一部損壊 3,697棟
- ・避難者 避難所 **190**箇所 **13,771**人
- ・大規模火災 輪島朝市周辺で発生 **4.9ha** 焼失**264**棟
- ・海岸隆起 1.5m~4.0m 土砂災害、津波など複合的な災害
- ・孤立集落 **15**地区 **2,817**人孤立 (R6.2.13解消)
- ・避難指示 6地区 671人288世帯

# 地震被害等の状況(インフラ施設)

- ・道路関係 国470号・249号,主要地方8路線,一般県13路線  
市道1,372 路線のうち多数に甚大な被害 **1.5m~4.0m**
- ・土砂災害や河川(閉塞)、橋梁、港(陥没、海底地盤隆起)の被害

- ・農林漁業,商工業,教育,  
文化,スポーツ、その他  
公共施設の被害

- ・電気ピーク時10,000戸  
停電(3/12復旧)

- ・水道 給水数11,434戸  
全域断水(5月末復旧)



# 避難所・避難者の状況(地震被害)

【発災時及び現状】 指定費以外に地区集会所,個人宅,ビニルハウス等に自主避難

- ・ピーク時(1/2現在) **186**か所**13,641**人・半年後(10/22現在) 2か所16人
- ・指定避難所が被災し避難者多数→避難所内が過密状態で環境悪化
- ・新型コロナ、インフルエンザ等感染症発症/医療機能低下→病院逼迫
- ・災害関連死の防止(助かった命を救う)

課題

## 【1次避難所・避難者の推移】

月日	避難所	避難者
1月1日(発災)	186	13,612
1月2日(最大)	186	13,641
1月31日	87	2,833
3月31日	51	1,661
5月31日	43	714
8月31日	7	67
10月22日	2	16

## 【対応状況】

- ・避難所の環境整備(プライバシー確保,仮設トイレ・シャワー,洗濯乾燥機,空調等)
- ・ライフラインの復旧、応急仮設住宅の建設(目標10月末に1次避難所解消)

高台にある輪島中に多くの市民が避難

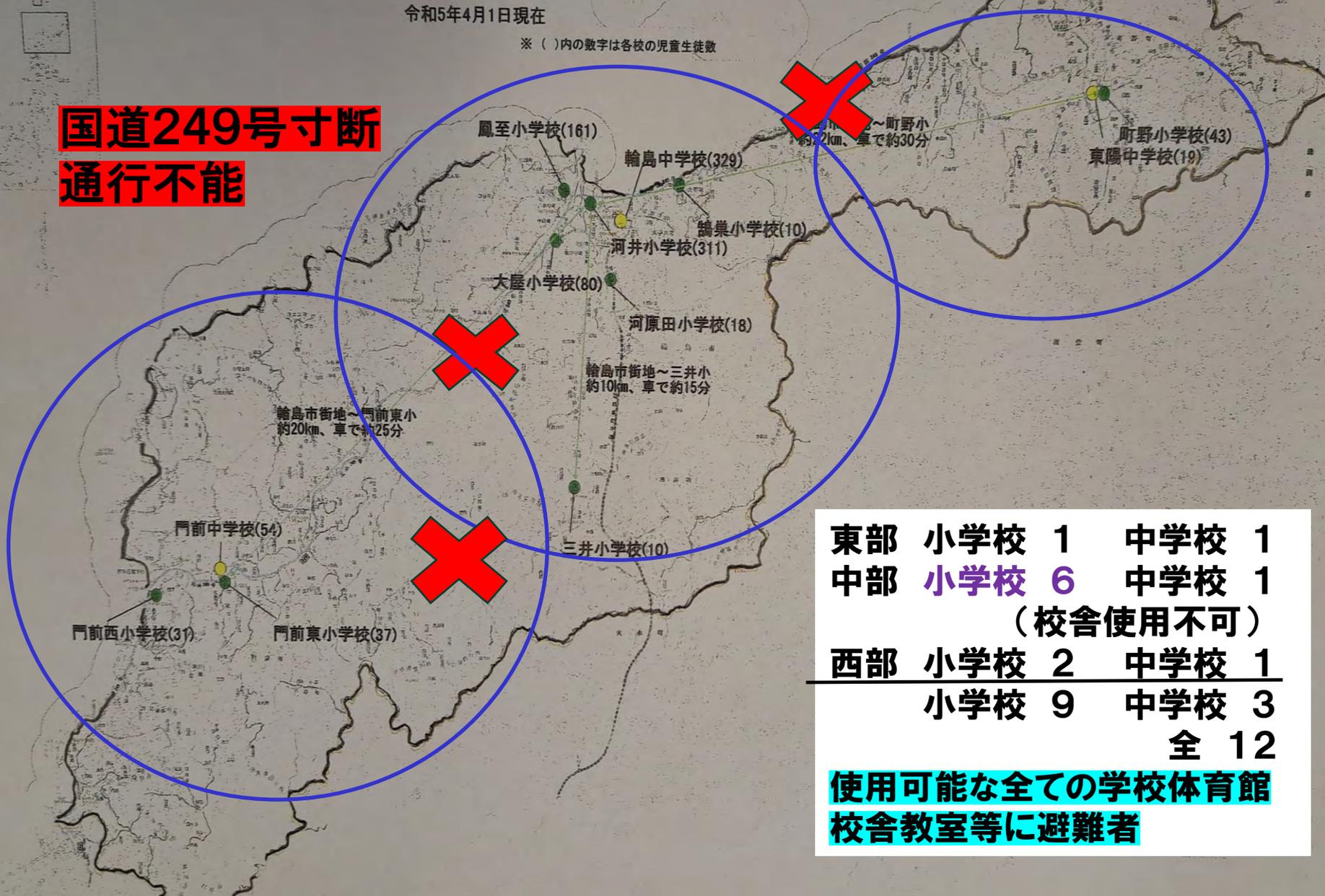


# 学校配置図

令和5年4月1日現在

※ ( )内の数字は各校の児童生徒数

**国道249号寸断  
通行不能**



東部	小学校	1	中学校	1	
中部	小学校	6	中学校	1	
(校舎使用不可)					
西部	小学校	2	中学校	1	
		小学校	9	中学校	3
				全	12
<b>使用可能な全ての学校体育館 校舎教室等に避難者</b>					

【学校施設別】

# 小中学校の被害状況

学校	校舎	体育館	グラウンド	備考
河井小	大破	小破	使用可	仮設校舎設置
鳳至小	大破	中破	仮設住宅	
鵜巣小	小破	軽微	仮設住宅	給排水復旧中
大屋小	小破	軽微	仮設住宅	排水復旧中
河原田	小破	小破	仮設住宅	
三井小	大破	小破	使用可	
門前東	中破	小破	一部仮設	基礎杭頭破断
門前西	小破	小破	仮設住宅	給排水未復旧
門前中	小破	小破	一部使用	
東陽中	小破	軽微	使用可	床上浸水
町野小	小破	小破	仮設住宅	床上浸水
輪島中	小破	小破	一部使用	



# 中学生集団避難へ

全12小中校舎・体育館等被災→使えるところは全て避難所



各校独自での再開を見通せず

**1月17日 集団避難開始**

中学生 白山市 2施設 3中校へ

輪島市内 3中学生  
(輪島中, 東陽中, 門前中)

**250名**  
/400名

三重派遣隊 早朝登校見守り

1月24日～ 門東小校舎で西小門中 3校同居

1月30日～ 町野小校舎で東陽中 2校同居

2月 6日～ 県輪高校舎で6小1中1高同居  
児童生徒(約300人)で, 授業開始

# 中学生集団避難へ

安全・安心な生活環境、学びの場を

- ・避難所や厳しい生活環境を回避
- ・生徒の心身のケア(友達と一緒に)

結果として保護者の生活再建への側面的支援に

中学生なら3学期間は耐えられる←前例無し

生徒集団避難(宿泊体験施設)支援要請→県教委

あくまで任意(生徒・保護者の判断) ↔ 厳しい選択

・7日決断→8日県打診→9日県了承→10日要領決定

11日案内開始→12～15日集約→17日朝輪島出発

メール・テトルにて

実質2日で決断求める

# 白山市での生活 & 学校活動

1月17日～3月22日 白山市へ

実質3日間で希望集約

県白山市の  
全面的支援

・少年自然の家 1・2年生(輪島中)

学びの場 白嶺中、鳥越中 **130**人

・白山青年の家 1・2・3年生(東中、門中、輪中)

学びの場 鶴来中、青家集会室(3年) **118**人

(他児童生徒 1月17日現在 **自宅・市内外避難場所等で待機**)

R5 12.1現在 1,100人在籍(小700人、中400人)

# 輪島市内小中学校再開

三重県チーム早朝登校見守り等



- 1月24日 西部(門前地区) **門前東小校舎**  
門前東小・門前西小・門前中 **(3校合同)**
- 1月30日 東部(町野地区) **町野小学校舎**  
町野小・東陽中 **(2校合同)**
- 2月 6日 中部(市街地区) **輪島高校舎**  
河井・鳳至・大屋・河原田・鶴巢・三井・輪中・輪高 **(8校合同)**

熊本県等派遣チーム 児童生徒・教職員への心のケア等

# 昼食の提供 暖かいご飯・おかず、汁物

宮城.三重.大阪他ボランティア団体炊出し・弁当形式→暖かいご飯・汁物





調理場所からポイント地点へ、  
そこから3方向へ分散積み込み



調理から2時間以内で、暖かい  
ご飯・おかずを届けるために



調理・盛り付けにあたられた  
方からのメール（毎日）

# 炊き出し 汁物(野菜材料) 宮城県 きぼっちゃん様

2024. 2~4

野菜切り、真空パック詰めに  
関わってくださった皆さん



汁物炊き出しに、ネットワーク  
を通じ、全国から駆けつけ協  
力してくださった皆さんの様子





何よりも、  
**暖かいものを**  
**児童生徒**  
**教職員へ**

# 令和6年度学校体制 10.30現在

## ・西部

※5月1日～ 完全給食再開

4月7日～門前東小校舎 東・西小合同授業

8.22 東小校舎基礎破断・使用不可判明

9月2日～門前中校舎へ 1中2小同居授業

## ・中央部

4月7日～輪島中校舎 輪島中6小学校同居

9月2日～小仮設校舎へ 6小学校合同授業

## ・東部

4月7日～町野小校舎 町野小・東陽中同居

9.21 奥能登豪雨 校舎床上浸水

10月1日～柳田小・中へ 各小中校合同授業

# R 6.9.21 奥能登豪雨 発災後の状況

市役所横河原田川



市街地中心部浸水状況



門前中体育館横法面崩落



門前中学校周辺



河川氾濫浸水状況



# 奥能登豪雨被害の状況 [河川周辺]

普段は穏やかに山間を流れる河川が短時間の豪雨で氾濫し、人家や農地に甚大な被害をもたらした

塚田川(久手川町)



神田川(石休場町)



牛尾川(町野町)



法面崩壊状況



通学路坂状況



## 指定避難所 門前中学校体育館

9/21~22 約100名避難受け入れ



体育館宿泊状況



廊下食事状況

# 豪雨被害の状況(人的・建物)

(R7.4.21現在)

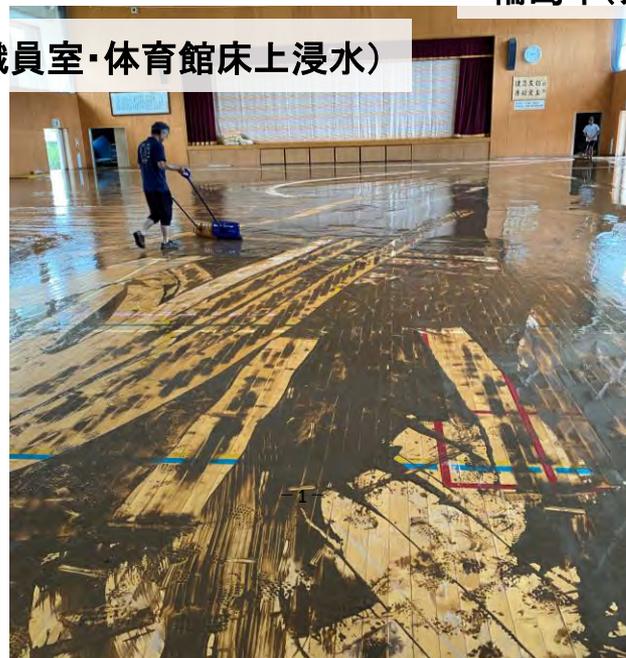
- 死者数 11人 (うち関連死0人)
- 人被害 重症1人 軽傷34人
- 家被害 **浸水** 1, 644棟 **土砂** 389棟
  - 全壊 66棟 121棟
  - 大半壊 36棟 32棟
  - 中半壊 109棟 4棟
  - 半壊 547棟 141棟
  - 準半壊 73棟 10棟
  - 一部壊 457棟 56棟
- 避難者数 最大 避難所 40所 1,047人

R7.4.13 地震・豪雨による避難所は、すべて解消

# 学校施設の被災状況

- ・ 門前東・西小学校は校舎基礎杭損傷にて門前中間借
- ・ 6小は2学期河井小のG.での仮設校舎で授業実施
- ・ 豪雨被災町野小東陽中は、隣町柳田小中で合同授業
- ・ 輪島中学校、門前中学校は自校校舎を利用

区分	小学校	中学校	備考
被害あり (使用不可)	9校	1校	町野小、東陽中含む
被害あり (使用可)	0校	2校	門前中、輪島中学校
計	9校	3校	



# 自治体の枠を超えた就学機会の確保

【課題】 **地震** : 1月能登半島地震・全小中学校が被災、避難所も開設され学校再開見通し立たず

**豪雨** : 9月奥能登豪雨・町野小東陽中床上浸水により校舎使用不可

【対応】 **地震** : 中学校施設での学びの継続困難約130K離れた**白山市へ集団避難**

**豪雨** : 約9K離れた能登町の柳田小・中に避難し各校合同授業 (10/1~)  
※移動は市スクールバス

【期間】 1/17~3/8(3年)~3/22(1・2年)  
県立白山青年の家  
輪島中3年、東陽門前中 118人  
県立白山ろく少年自然の家  
輪島中1・2年 130人  
1・2年白山市の3中学校に通学  
(各学校空き教室等利用)

**白山市への中学生集団避難**



能登町

能登町への2小中生避難

【期間】10/1~3/24  
※卒業式は本校

【避難先・人数】

柳田小学校 (83人)  
+ 町野小 19人  
2校 計 102人

柳田中学校 (52人)  
+ 東陽中 10人  
2校 計 62人

# 災害発生時の問題点（課題）

- ・被害状況の把握が進まない(交通・通信)
- ・本庁、支所、出張所間の連絡にも障害(交通・通信)
- ・市外からの救援・応援の到着までに長時間かかる(交通)
- ・孤立集落の対応[救助、物資、連絡手段](交通・通信・ライフライン)
- ・断水による消防活動の制限(防災・ライフライン)
- ・輪島朝市周辺で地震による大規模火災発生(防災・ライフライン)
- ・医師数、病床数に限りあり負傷者、急病人への対応が困難(医療)
- ・建物や道路被害により使用できない避難所もあった(交通・防災)
- ・自衛隊、警察、消防等の待機場所確保が困難(防災)
- ・指定外の市本庁舎や消防署へ避難者、防災拠点機能低下(防災)
- ・校舎に避難スペースが開設状況における学びの保障(防災・教育)
- ・想定超大規模災害に、当初災害対応は混乱を極めた(危機管理)
- ・限られた職員での対応/当初参集2割(危機管理)
- ・地震発生が元旦、関係機関は休業であった(危機管理)

# 次の大規模複合災害に備える

非常事態参集率 2 割想定での初動体制整備

交通網、通信網、電気・水道の損壊を想定

- ・ 最寄参集可能施設での初動対応マニュアルに基づく
- ・ 参集最上位者の指示,誰もが運用可能なマニュアルに基づく

情報収集体制の抜本的見直し

- ・ 参集/ 2 割の人員で役割分担(情報収集等不可欠業務に限定)
- ・ 参集/ 2 割、交代での初動対応訓練年 3 回実施・検証改善
- ・ 初動業務を、全学校共通のもの,独自のものをマニュアル化  
他校勤務者でも、参集・上位者が判断し、指示可能な体制を

【学校】 指定避難所運営連絡会 (学校、地域、行政)

職員等参集運営・住民体験避難訓練 中学生の役割に期待

# 災害時の教職員の対応（危機管理）

## ⑧ 地震発生時の対応（在宅時 の対応例）

＜出典：「石川の学校安全指針」  
石川県教育委員会＞

参考

地震発生

抜本的見直し  
必須

P83 参照

学校へ参集

参集しなくても  
できなくても

- 県(市町)、学校が定める地震災害に係る体制に基づき、学校へ参集
- 交通の混雑等が予想されるため、できるだけ徒歩、自転車、バイク等の利用を心がける

児童生徒の安否確認

通信・デジタル  
機器の活用

### 【確認の内容】

- ・ 児童生徒等及び家族の安否・けがの有無
- ・ 被災状況（児童生徒の様子・困っていることや不足している物資）
- ・ 居場所（避難先）
- ・ 今後の連絡先、連絡方法

# 今後の課題

○地震発生直後、学校参集できたのは全体の約2割  
(想定外の災害発生時の初動対応→広域配置の課題)

○国、県の学校安全指針は、参集先を「学校」とのみ  
道路状況不明時における勤務校への参集は、移動  
リスク極めて大、

**命の危険覚悟して臨む姿勢  
災害等発生時の心構え**

○全教職員に対し

避難所開設運営のノウハウ研修や訓練等が不可欠

「大規模災害時の学校における避難所運営の協力に関する留意事項」等参照

# 備える視点

自助・共助

## 心の防波堤

を築き維持し高める

学校から発信・啓発しての地域防災力の構築

普段は

万一その時には

初動時、いかに自助・共助・近助力を  
発揮するか **中学生・保護者の役割大**

## 広義の防災教育の重要性

かかわり を通して地域を理解し、生き方を考える

かかわり を通して自己肯定感自己有用感を育む

- ・持続可能な地域づくりに主体的にかかわる人づくり  
— 復興教育・防災教育は、主権者教育そのもの —

**未来を生き抜く人づくり、顔の見えるふるさとづくり**

# 能登町小木中学校生徒保護者の取組み・実績より その時、小木地区・学校避難所では

中学校へ行けば、中学生が教えてくれるので安心して行けた 住民高齢者の声  
中学生が積極的に避難所運営にかかわる姿が 町職員や運営リーダーの声  
先輩のこれまでの取組み、率先して動く姿に 閉校式生徒代表の言葉

## 学校から発信・啓発しての地域防災 学校の伝統に

地域から一人の犠牲者も出したくないとの願いのもとに

- 津波想定海拔表示ハザードマップ作り／全世帯配布
- 避難経路調査、避難経路案内マップ作り／DVD作成配布
- 生徒会・PTA主催合同避難所体験（間仕切設置、講演会等）
- 生徒会主催住民向け津波フォーラム
- 津波災害・防災出前授業 生徒→児童に
- 防災の歌（振付→防災体操）作成 生徒→児童幼児に
- 指定避難所（学校体育館）への避難訓練 全世帯に呼かけ
- 防災ジャンボかるた作成 町社福協が200セット作成へ

自然の猛威は人知想定を遥かに超えるものであった。輪島市では、大地震を最大M6と想定した災害対応マニュアル、避難所運営や物資搬送計画で備えていた。**実際はM7.6 最大震度7**。発災から数日間、道路通信網等様々なインフラが寸断。市内は、東部・中央部・西部に分断され、直後本庁舎に参集できた職員40/200の2割。初動対応は困難を極め、機能するまでに数日を要した。全ての公共施設は避難所となり避難者で溢れた。当初毛布1枚なく、ルールリーダーも不明で、大混乱となった所もあった。

学校施設の損害極めて甚大、使用可能な体育館・教室は、全て避難所となっており、学校の再開等は、全く見通せない状況下、**市外への生徒集団避難を決断**した。また被災状況極めて甚大であった市内中央部6小・1中学校は合同で、市内高校教室を借りて再開する等の判断するほかなかった。

一方能登町小木地区では、2011年より、生徒と保護者、住民が一体となり防災活動を継続。重ねてきた訓練等がいき、避難所では、生徒が主体的にスタッフとして支え、住民の落ち着いた行動にも繋がったと聞いた。

二度の大災害を被った輪島市民の避難や行政対応の実態、能登町小木地区生徒・住民の避難の実績等から、次のその時への教訓は、

- ①道路等全てのインフラの寸断を前提に、参集者2割とし、その上位者が責任者となりマニュアルを運用していく体制の整備。
- ②学校避難所は、公助が機能するまでの3日程度、自助共助で命を守る物資の備蓄／簡易トイレ、発電機器、スターリンク、体育館空調設備の整備。
- ③学校/保護者/地域/行政等による、避難所運営連絡会設立と運営マニュアルの策定
- ④学校と地域が一体となつての避難訓練や避難所運営訓練・避難所体験等の実施。
- ⑤自分の命は自分で守り抜き、地域から一人の犠牲者も出さないための『心の防波堤』を築く防災教育の推進と地域への啓発。
- ⑦生徒集団避難等にあたり、自治体間での相互連携体制、学校と生徒・保護者との事前確認。 **国、県レベルでの広域避難受け入れ体制整備**

- 学校管理下・管理下外の別
- 災害の種別
- 季節天候・昼夜時間帯
- 学校の責任の範囲の明確化**  
初動から公助自治が機能するまで
- 果たすべき役割（責任）  
管理職・一般教職員別
- 住民行政への周知（理解）

石川県能登町

(2011～2025)

# 小木中学校の実績より

学校と地域が一体となって進める防災への取り組みは、日頃から生徒と住民の顔の見える関わり合いが重要であり、未来を生き抜く生徒の自己肯定感、他者を思いやる姿勢を育み、地域を愛し、持続可能な未来のふるさとづくり・復興へ、担い手として主体的に関わろうとする人材育成に大いに資する、不可欠なものといえるのでは。

# 備える視点

## 自助・共助

学校(体育館等)が避難所 **—学校再開を大前提に—**

学校使用上の基本的な約束(学びの場再開を念頭に)

学校と地域が,日ごろからの共通理解を図っておくこと

- **避難所運営連絡会**は **学校(生徒・保護者)、住民、行政**
- **避難所開設 & 運営マニュアル**は **学校管理下・外、災害の種類や季節**  
↑ **三者**の役割  
**学校長・教育委員会の参画不可欠** 指揮系統の明確化(参集上位者に従う)
- **避難訓練・避難所開設(図上訓練含む)・体験訓練**は

**学校と地域、行政が一体となって進めることが大切**

**市町防災対策部署と教育委員会・学校長の共通理解が不可欠**

地域防災において、学校の参画は不可欠。  
学校における地域防災への取り組みありてこそ。

# 備える視点 自助・共助

自分の命は自分で守る

地域から一人の犠牲者も出さないために

- その時、自分(地区)はどこかの避難所へ  
地震では、豪雨では、津波では 避難所以外では
- その時の **てんでんこ** (家族の強い信頼関係)  
間違いなく、わが子は安全な場所へ避難している  
→ 自分の命は自分で守るため最善を尽くしている  
自分も、家には戻らない  
→ 約束した避難場所で必ず抱きしめ、褒める

★ 自分を守ること ⇒ 第三者も守ることに

保護者の姿勢・行動が問われる

# 備える視点 **自助・共助・行政**

地域から一人の犠牲者も出さないために

**学校と地域、行政が一体となって  
進める「地域防災の取組み」を**

**学校から発信・啓発して進める地域防災の意義**

**防災教育・地域防災推進のコーディネーター  
学校と地域をつなぐ役割 ⇔ 防災士**

- ・防災は、「その地に住まうための作法」（東大 片田敏孝教授）
- ・中学生・保護者は、地域防災の担い手／共に 防災士資格を

# 備える視点

## 自助・共助・行政

### 万一の『非常参集 & 初動』 その時に向けて

心構え 教職員としての心の準備(採用時の共通理解が必須)

備え 採用自治体における採用条件(雇用条件・体制の整備)

自治体職員、教職員を志し、実際に勤めるにあたっての心構えとして  
非常災害時、勤務先に参集することを、最優先行動と覚悟しているか

参集手段を準備してあるか

備え 学校(教職員)の児童・生徒安否確認体制の整備・訓練

### 万一の『生徒の集団避難』 その時に向けて

心構え 保護者としての心の準備(入学時の共通理解が必須)

備え 自治体間相互連携体制の整備(国・県・市町村)

備え 学校(教職員)の複数拠点での授業継続体制の整備

# 全ては、命ありてこそ

防災を学校の伝統に、地域の文化へ

地域防災の重要な担い手 生徒・保護者

『この地区が大好き。だから、この地区から

災害による犠牲者を一人も出したくない。』

□□からの100回の呼びかけよりも、生徒(学校)からの1回の呼びかけ・学校からの発信・啓発が  
いかに効果があるか、推進の大きな原動力の一つとなるのは、学校教育活動(生徒の姿勢・活動)

地域防災への取り組みは、生徒にとって、自己有用感自己存在感を育み、未来を生き抜く力、考える力、地域を理解し、愛し、誇りを持ち、生き方を考え、自らの志につながる素晴らしいテーマ

—地域防災への取り組みは、だれにとっても優しい地域づくりの原点—

東京大学特任教授片田氏 黒潮町元教育長畦地氏 対談を参考に

地域とともにある学校を創造するなら 未来を生き抜く力を、自らが身に着けていくように、育もうとするなら

『防災への取り組みは教育の使命』

# 教育環境への影響（市立小中学校の配置・再編計画）

## 背景

福井県 福井市 市内図

### 学校配置図

令和6年5月1日現在

【西部地区の再編】  
小学校1校と中学校1校を統合  
小中一貫の義務教育学校(R8～)



8校減

### 市立小中学校再編計画[R7.2策定]

地区	再編(震災)前	再編(震災)後
中央地区	河井小学校	6校統合 小学校
	鳳至小学校	
	鶴巣小学校	
	大屋小学校	
	河原田小学校	
	三井小学校	
	輪島中学校	輪島中学校
東部地区	町野小学校	義務教育 学校
	東陽中学校	
西部地区	門前東小学校	義務局育 学校
	門前西小学校	
	門前中学校	
学校数	12校	4校

市内の小学校において児童数の減少や中心部への就学希望により、6つの小学校で複式学級が編成され、中学校でも近い将来複式学級が見込まれるほか、築50年以上の校舎もあり、計画的に施設の更新を検討する必要があるなど、今後の児童生徒数の推移や教職員の配置も含め、現状の体制で学校運営を継続することが難しい状況にあることから再編計画を策定した。



【東部地区の再編】  
小学校2校と中学校1校を統合  
小中一貫の義務教育学校(R8～)

【中央地区の再編】  
小学校6校を統合  
小学校1校、中学校1校(継続)



# 今後の方針

## R 8.4.1 ~ 「輪島市学校再編計画」

- 中央部 6 小学校 ⇒ 1 校の小学校に統合  
新校舎 R 1 0 共用開始予定
- 東部 1 小 1 中校 ⇒ 1 校の義務教育校に再編  
校舎 R 9 復旧完了 共用開始予定
- 西部 2 小 1 中校 ⇒ 1 校の義務教育校に再編  
校舎 R 9 復旧・増築完了 供用開始予定

※中央部 現 1 中学校と合わせ、

**1 小学校, 1 中学校, 2 義務教育学校体制に**

## 概要

- ・能登・輪島を愛し、復旧・復興・発展に主体的に志を持って関わろうとする主権者を育成するため、地域と一体となって進める市内全小中学校の教育活動として位置付けるもの。
- ・能登半島地震・奥能登豪雨による被災体験や避難所での生活と出会い、様々な支援と復旧復興に向けての様子などを通して得られた教訓を、学校教育の中に生かし、児童生徒が持続可能な輪島の未来を創造し、未来を拓いていこうとする姿勢を身に着けていけるよう、取り組みの指針となる「輪島の創造的復興教育プログラム」を策定し、創造的復興教育つなぐプロジェクトの取り組みを進めていく。
- ・創造的復興教育は、地震・豪雨と度重なる災害に見舞われながらも、子どもたちが、夢や希望を持ち「生きる力」「考える力」「創造する力」を育み、未来を拓く「ひとづくり」であり、ふるさと輪島を復興・発展させるために必要不可欠である。

## 基本理念

## 『まちづくりはひとづくり ひとづくりは教育にあり』

## さまざまな“つながり・かかわり”を通して自己肯定感・自己有用感と社会性を育む

- ・想いをつなぎ かかわりあうひとづくり…復興にかける思い、思いやりの心、周囲とのかかわり
- ・命をつなぎ 未来を生き抜くひとづくり…命の尊さ・大切さ、生命のつながり
- ・地域と人をつなぎ 顔の見えるふるさとづくり…人と人、人と地域、地域と地域のつながり

## 計画期間

令和8年度～令和16年度（9年間） ※令和7年度は準備年度（プログラム策定等）

- 第1期（R8～R10）：導入期 教訓から学び、備える
- 第2期（R11～R13）：創造期（成長期） 体験と実践を通して夢を描き、志に高める
- 第3期（R14～R16）：発展期 自ら考え行動し、輪島の未来を創造する